



第2回 GPS 気象学ワークショップ (公開) のお知らせ

場所：国土地理院 (つくば市北郷)

期日：1996年7月17 (水) ~18日 (木)

プログラム

7月17日 10時-12時30分：

—GPS 気象学の現状— (座長：青梨和正)

GPS 水蒸気遅延観測の重要性 (趣旨説明に代えて)

(田中寅夫)

STORM 実験観測：米国の GPS 可降水量実験観測

(大谷 竜)

Grapes による日本列島上空の可降水量の評価

(大谷 竜)

WAVEFRONT 計画：EC における GPS 可降水量

観測網 (野村 厚)

IGS による全球 GPS 可降水量観測計画

(市川隆一・松山 洋)

GPS による成層圏温度プロファイルの観測：米国の
の試み (津田敏隆)

大気屈折率のデータ同化シミュレーション：米国の
の試み (野村 厚)

GPS 気象学に関する科学技術庁特別研究計画の概
要 (畑中雄樹)

13時30分-15時30分：

—水蒸気の動態学— (座長：吉崎正憲)

宇宙からとらえた水蒸気の動態 (早坂忠裕)

平野部における水蒸気の動態 (岩崎博之)

下層風と水蒸気の動態 (上田 博)

つくば降雨域実験観測の概要 (吉崎正憲)

メソスケール気象学に関する文部省重点領域研究計
画の概要 (坪木和久)

GPS 3次元水蒸気トモグラフィは可能か

(平原和郎)

15時40分-17時40分：

—宇宙測地に及ぼす大気海洋の影響—

(座長：島田誠一)

SAR に及ぼす水蒸気分布の影響 (飛田幹男)

南鳥島における GPS 観測 (岡田正実・加藤照之)

GPS 観測に現れる大気遅延効果の振る舞い

(木股文昭)

VLBI における大気遅延誤差の考察 (高橋幸雄)

宇宙測地の鉛直成分の観測精度はなぜ悪いか

(日置幸介)

宇宙測地に及ぼす大気海洋質量荷重変形の影響

(仙石 新)

7月18日 9時30分-12時30分：

—日本の GPS 気象学案：討議— (座長：斎藤 隆)

GPS 予報暦の精度とリアルタイム GPS 解析の問題
点 (畑中雄樹)

Grapes 可降水量に基づく水蒸気4次元データ同化
法とその問題点 (万納寺信崇)

数値予報データに基づく決定論的大気遅延評価の
2, 3の方法 (市川隆一)

決定論的大気遅延評価と GPS 解析ソフトウェアの
改良 (島田誠一・日置幸介)

GPS 水蒸気情報データベースの構築とその問題点

(宮崎真一・野村 厚・市川隆一)

海洋域における GPS 可降水量観測は可能か

(矢吹哲一郎・内藤勲夫)

GAME における可降水量情報の重要性 (松山 洋)

ワークショップまとめ

(内藤勲夫)

問合せ先：

内藤勲夫 (E-mail : naito@miz.nao.ac.jp,

Fax : 0197-22-3410)

Multivariate Testing Approach を使ってみてはどうかという提案も本書でされている。また一般に予報の評価は甘すぎる場合が多く、独立資料による検証が十分に行われていないとの指摘は痛いところをつかれた感じがする。サンプル数が少ないならば、Cross-Validation を利用すべきと述べている。Cross-Validation は、予報を評価する独立資料が十分でないときに、サンプルのうち1～2個を除いて予報モデルを作り、除いた1～2個のサンプルでその予報モデルの結果を評価し、順に抜き出すサンプルを変えて評価を繰り返す方法である。

引用文献も豊富にある。文献リストには各文献ごとに引用された章と節を付記する工夫がされている。こ

の本はそれぞれの章が独立しており、必ずしもページの順に読むとは限らないので、各文献の関連部分を文献リストで知ることができるのは便利である。

最近は統計分析のソフトウェアが手軽に利用できる。ソフトウェアの中身を知らなくても、データを入力すれば結果がすぐ出てくる。そのためその手法の本来の適用範囲を越えた使い方をしてしまう危険性も大きい。気軽に使っているソフトウェアの内容を改めて見直すのにこの本は好適である。論文でよく目にする現役の一流研究者（目次参照）をそろえたこのスクールを受講できた人たちは幸せだ。

(気象庁予報部予報課 青木 孝)



「地球温暖化/気候変動の影響の検出に関する情報について」 情報収集へのご協力をお願い

地球温暖化/気候変動に関する研究は、多くの側面から取り組まれています。早期の予防的対応に向けて、その影響をいかにして検出するかが、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)などでの重要な話題として取り上げられています。これは、気温、降水量の変動などの気象に関する要素だけでなく、生態系や極水圏など気候に鋭敏なシステムに現れる影響をも対象として、変化を検出しようとするもので、各国ですでにいくつかの研究が進んでいるようです。

国立環境研究所でも、自然及び人間社会に対する、地球温暖化/気候変動の影響の検出の手がかりとして、さまざまな分野における、猛暑、冷夏、暖冬などの異常気象による影響、もしくは、長期的な気候変動の影

響と考え得るような変化等についての研究事例を収集しようとしております。

つきましては、各位のご専門の分野において、地球温暖化/気候変動の影響、及びその検出方法等に関する研究事例をご存じでしたら、下記宛先までお知らせ下さいませよう、ご協力をお願い致します。

〒305 つくば市小野川16-2

国立環境研究所 社会環境システム部
原沢英夫

Tel : 0298-50-2507

Fax : 0298-58-2645

E Mail : harasawa@nies.go.jp